軽種馬育成調教場の運営・管理
～開場20周年を迎えて～

軽種馬育成調教センター　日高事業所次長　早川　聡

平成25年、軽種馬育成調教センター（BTC）は財団法人から公益財団法人となり、あらたなスタートを切りました。事業内容も軽種馬の育成調教施設の運営・管理事業、育成調教技術者の養成事業および育成調教技術の改善・普及事業を主体に行うこととなり、その他の事業は他団体にて継続して行われることになりました。そんな公益財団法人として初年度の10月7日には、BTC調教場は開場20周年を迎えております。

開場当初のBTCは利用できる調教施設も少なく、グラス馬場の他には屋内直線馬場と600mの屋内トラック馬場、1,200mと1,600mのダートの直線馬場があるだけでした。トラックコースの1,600m、800mのダートコースなどはまだ工事中で、屋内坂路馬場は当初の計画段階では予定にさえなく、強い馬づくりには坂路馬場が必要であり屋内調教施設の充実をはかるため、平成10年にやっと工事が始まりました。

また、近隣牧場から育成馬に騎乗して道路を横断してくるのが当たり前となっている、現在の日帰り利用のスタイルですが、当時は育成専門の牧場は周辺にはなく、馬運車で通ってくる牧場と滞在馬房の馬達が調教を行うのみだったそうです。今でこそ、近隣に育成馬専門の牧場がたくさんあり、合わせて900馬房を越えています。これらの日帰り調教馬は一日の利用馬のうち7割程度を占め、日々馬が道路を横断してくるBTC調教場周辺の景色もずい分変わったものです。

施設についても、 20年の間に各所で改良されて現在の形となっており、近隣牧場から道路を横断してくる馬達のための

BTC調教場　全体図

ゲートは5ヵ所となり、初めは手動式であったゲートも、平成19年から自動開閉式のゲートが設置されるようになりました。屋内直線馬場と屋内坂路馬場には赤外線によるタイム自動計測機が設置され、また1,600m直線ダートコースには馬が通過するとハロン棒のランプが点灯するハロンシグナルが設置され、ストップウォッチでタイムを計測できるようになっております。毎日の保守管理方法についても、今日の形になるまでは試行錯誤の連続であったと聞いております。今年度も予定しておりますが、2年に1回行っている屋内トラック馬場の砂の入れ替えも、過去には1年で交換を余儀なくされたこともあったようです。

それでは、昨年度のBTC調教場の運営・管理について報告いたします。先ず、利用状況について、利用実頭数は2,843頭（前年比100.2%）、利用延べ頭数は147,617頭（88.3%）、一日当たりの平均利用頭数は475頭でした。

次に、施設管理については、昨年度行った主な作業は以下に示す通りですが、とくに屋内直線馬場と屋内坂路馬場におけるウッドチップの入れ替え作業を重点的に行うことが出来ました。例年の補修では行えなかったコースのチップも大幅に入れ替えることができ、かなりクッション性が良くなりました。また、屋内坂路馬場のモニターもデジタル映像に改善し、坂路におけるトップスピードとなる700～800m地点のモニターの映像は、USBファイルに録画できるようになりました。利用者の方々は馬主・調教師さんへ育成馬・休養馬の調教具合を配信でき、さらに騎乗者の技術向上にも活用されているようです。

今年度についても、各調教馬場がより安全で使い易い施設になるように改善していくとともに、日々のメンテナンスを行ってまいります。そして何より、皆様の利用馬たちの安全と活躍を祈りつつ、ご利用を心からお待ちしております。

平成25年に行った主な作業

① 屋内直線馬場の西コースにウッドチップを表層10cm、東コースに同じく表層20cm入れ替えしました。
② 屋内坂路馬場の走路全面にウッドチップを表層10cm入れ替えしました。
③ 1,600mトラック砂馬場のコース中央部にクッション砂を補充しました。
④ 準備馬場のコース全面にウッドチップを厚さ5cm補充しました。
⑤ 1,200m直線砂馬場のコース中央部にクッション砂を補充しました。